第2回 SDGs建築賞 ―大規模建築部門―

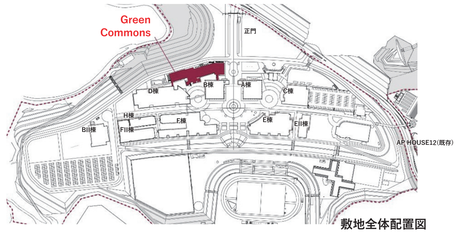
主催：一般財団法人 住宅・建築 SDGs 推進センター

審査委員会奨励賞　立命館アジア太平洋大学 Green Commons

人・地域を育み続ける「学びの森」

Green Commonsは、学生の約半数が世界111か国・地域(2024年11月時点)から集まる留学生で構成される立命館アジア太平洋大学において、新学部であるサステイナビリティ観光学部設置を契機として新たに建設された教学棟である。

サステイナビリティ観光学部開設に伴うプロジェクトであるため、新施設建設プロセスが地域課題の解決に繋がることを目指した。
蓄積するスギの有効利用のモデル構築が九州・大分県の林業における喫緊の課題となっており、新教学棟のコモンズを木造で計画し、木三学(木造三階建て学校の規制緩和)を大学へと広げることで、建物を建てる取り組み自体が教材となり学びの循環の中に位置づけられる学舎を目指した。

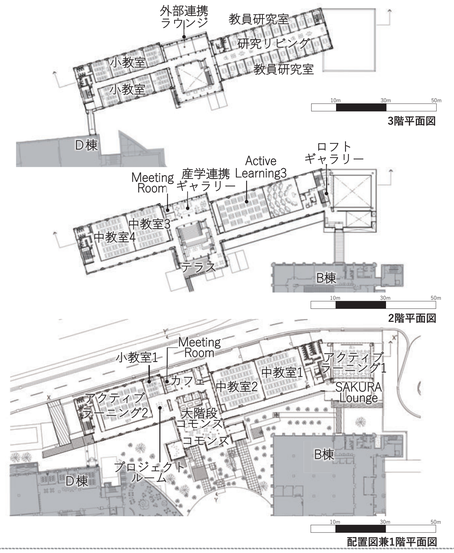


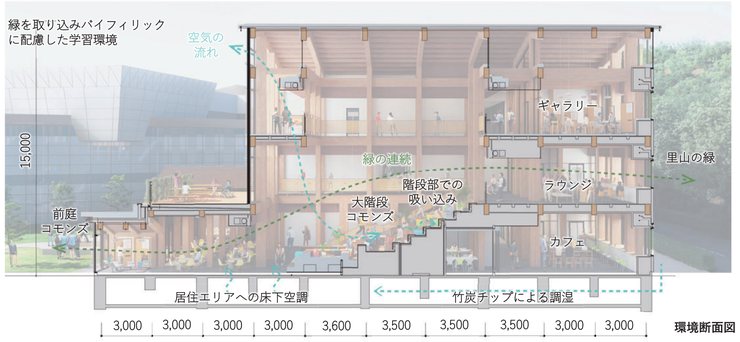
敷地全体配置図

敷地・周辺環境

計画地、立命館アジア太平洋大学（ＡＰＵ）は、温泉のまち大分県別府市を望む標高300ｍの山頂部にある大学である。

Green Commonsは、キャンパスの正面玄関横に位置する場所に既存の教室棟を連結させ、里山の緑に隣接する位置に配置した。
世界中から学生が集まるキャンパスのエントランス部分に、家形屋根が連なる集落のような外観として人々を招く教学棟を計画した。

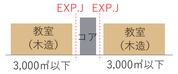




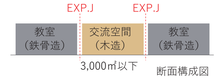
木三学（準耐火木造3階建学校）の活用を大学へと広げる

小中高が主であった木造三層学校（木三学）の大学での新たな活用モデルに挑戦した。木造部全てに国産材を、構造材の95％には地域産スギ材を用い、全体で477.4㎥を活用。強度の低いスギの中高層での新たな活用事例となる。特殊な技術が必要な耐火木造ではなく、準耐火設計にて2層部には製材を、3層部には集成材を適材適所に用い、地方でも実現可能な汎用性のある計画とした。また、木材の調達から加工まで九州圏内で完結することで、ウッドマイレージの最小化を実現している。

小中高モデル(文科省推奨モデル)

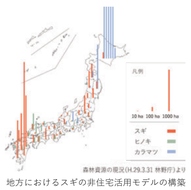


大学モデル



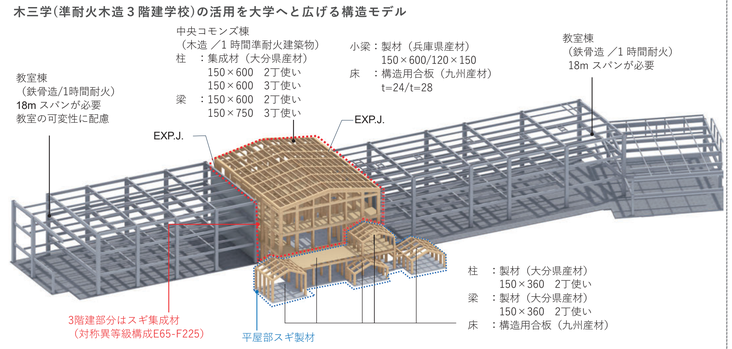
断面構成図

九州に蓄積する大径材スギ



地方におけるスギの非住宅活用モデルの構築

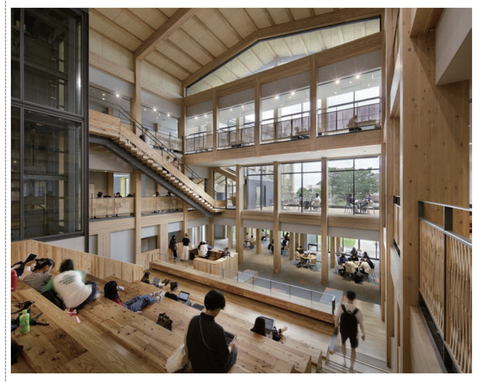
木三学(準耐火木造３階建学校)の活用を大学へと広げる構造モデル



ＳＤＧｓ達成に向けた取組の概要

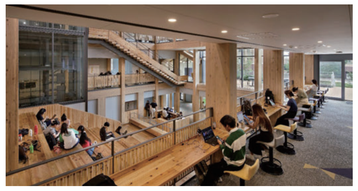
ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」

構造材の95％に地域産スギ材を用い、カウンターやサイン、吹き抜けの竹手すりに至るまで、徹底した地域の材料、技術で構成、地域の産業との連携により実現した。



ゴール4「質の高い教育をみんなに」

多様な個性を包み込むインクルーシブな木造校舎　吹抜を介して刺激し合うアクティビティが自発的な活動を生み出す



ゴール10「人や国の不平等をなくそう」

スロープ・EV を内包し、車椅子の方も中央で参加可能な大階段や、オールジェンダートイレの設置など、インクルーシブな仕掛けを学舎の随所にちりばめた。

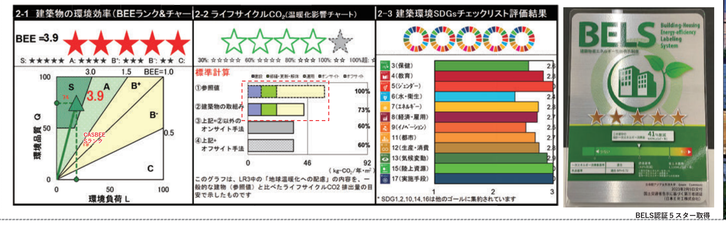
ゴール11「住み続けられるまちづくりを」

「木造の利用促進と教育に関する協定」新教学棟に地域材を積極的に活用することにより2050年カーボンニュートラルの実現に貢献するため、大分県と協定を締結した。

ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」

建設段階で、留学生に対し上棟式の餅まき体験や、日本・西洋の大工道具の文化比較体験を実施、日本の木の文化を世界へと発信した。

■CASBEE Sランク BELS５ｽﾀｰ取得



BELS認証５スター取得

Green Commons

建築主：
学校法人立命館
設計者：
株式会社竹中工務店
大阪一級建築士事務所
設計監修：
学校法人立命館
キャンパス計画室
施工者：
株式会社竹中工務店

所在地：大分県別府市
構造；木造、鉄骨造
階数：3階建て
建築面積：2802.82㎡
延べ面積：6495.95㎡
竣工年月：2023/2/21